

ランピースキン病は、皮膚の結節や泌乳量の減少等の症状を呈する牛のウイルス性疾病であり、主に吸血昆虫による機械的伝播により感染が拡大します。令和6年11月6日わが国初の感染が確認されて以降、福岡県及び熊本県で、計22農場で発生が確認されています。このことから、今一度、飼養衛生管理基準の徹底、農場間の伝播リスクを低減させる対策をお願いします。



#### ◆予防対策及び侵入防止対策

- 吸血昆虫（**サシバエ等**）の発生源となり得る除糞しにくい場所や牛が踏みつけない畜舎の四隅等、堆肥置場周辺等への**IGR剤の散布**。サシバエの休息場所となる牛舎周辺の草刈り等。
- 農場間の伝播リスクを低減させるため、車両消毒や車体や車内の吸血昆虫を農場間で運ばない対策の実施。
- 注射針、人工授精用器具等体液が付着する物品を使用する際は、1頭ごとに確実に交換又は消毒を実施。

#### ◆牛の健康確認と早期発見・早期連絡の徹底

- 本病を疑う症状がみられた場合には、当該牛を群から速やかに隔離するとともに、獣医師又は家畜保健衛生所に連絡するようお願いします。また、導入時や出荷時には健康状態の確認をお願いします。

## 豚熱ウイルスが本県でも確認されています！

豚熱は、豚やイノシシが感染する家畜伝染病で、H30年以降、国内で継続発生しており、発生すると養豚業界のみならず地域に多大な影響を及ぼします。野生イノシシが最も重要なウイルス拡散の要因ですが、R7年2月に松浦市福島町において県内で初めて野生イノシシで確認され、今後も拡大が危惧されています。仕事、狩猟、登山又はキャンプ等で山林に立入った際は下記の対応をお願いします。

- イノシシは糞便中などにウイルスを排出します。直接イノシシに接触しなくても、土壌中のウイルスを持ち運ぶ可能性がありますので、山林に入った場合は、**靴の泥は山林で必ず落とし、タイヤや靴底は可能な限り洗浄し消毒を行ってください。**
- キャンプ場や山などで飲食物を放置するとイノシシを誘引する要因となりますので、**飲食物やごみは持ち帰るか所定のごみ捨て場所で処分してください。**
- 山林に立ち入ったあとは、**養豚場へ近寄らない**ようにしてください。
- イノシシの死体を発見した場合は、市町又は家畜保健衛生所までご連絡ください。



## 飼養衛生ポータル利用

今年度より『定期報告』や飼養衛生管理基準の自己点検などの作業を電子化することで時間短縮・効率化を図るため、「飼養衛生ポータル」（以下、ポータル）という電子申請の運用が始まります。インターネットが繋がるスマートフォン等で利用可能で、過去の履歴を引用することで次回以降の入力の手間が省けます。

#### ★ポータル利用の流れは以下のとおりです★

- ① **gBizIDエントリー**のアカウントを取得します。
- ② eMAFFにログインし、**eMAFFプライム**を取得します。
- ③ <https://www.rearing-hygiene.maff.go.jp/login>又はQRコードからポータルに移ります。
- ④ 「農場台帳」、「定期報告」、「自己点検」、「任意の自己点検」の項目を入力します。



MAFF  
チャンネル



飼養衛生  
ポータル

